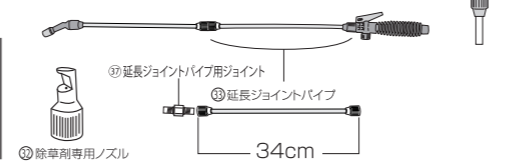
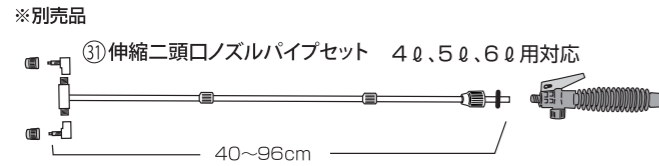
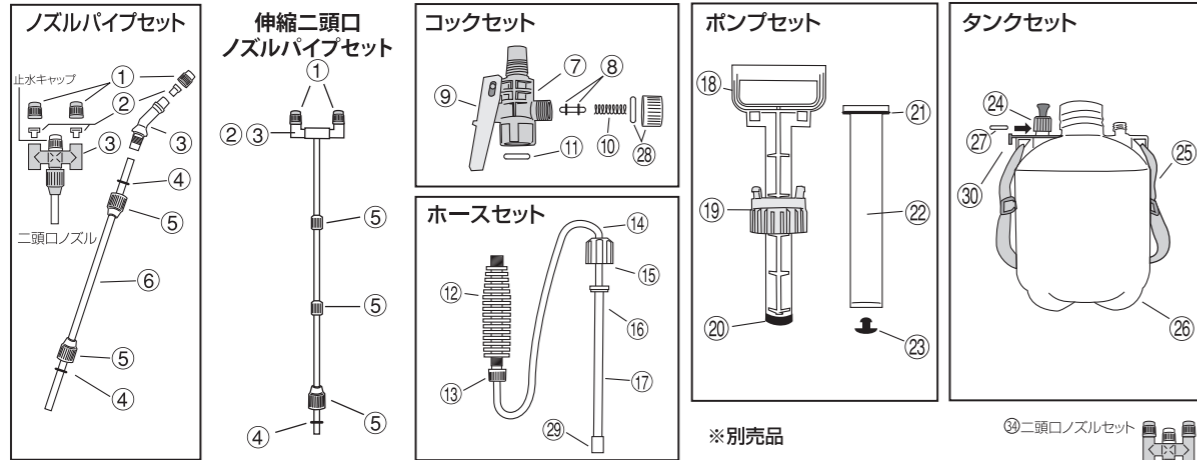




各部の名称



セット	No.	部品名	セット	No.	部品名	セット	No.	部品名	セット	No.	部品名		
ノズルパイプセット	①	ノズルキャップ	コックセット	⑦	コック	別売品	⑮	ポンプハンドル	伸縮二頭口ノズルパイプセット	⑳	ワン型パッキン		
	②	ノズル駒(虫)		⑧	コック弁パッキン		⑯	ポンプキャップ		㉑	ポンプパッキン	㉒	ポンプシリンダー
	③	ジョイント(一頭口用)		⑨	レバー		㉓	ポンプ弁パッキン		㉔	安全弁	㉕	ストラップ
	④	パイプパッキン		⑩	コックスプリング		㉖	タンク		㉗	安全弁パッキン	㉘	パイプホルダー
	⑤	アジャストナット		⑪	コックパッキン		㉙	給水ホース		㉚	ホースキャップ	㉛	タンク・給水接続パッキン
	⑥	ノズルパイプ		⑫	グリップ		㉜	吸水ホース		㉝	ゴミヨケ	㉞	ゴミヨケ
伸縮二頭口ノズルパイプセット	①	ノズルキャップ	ホースセット	⑬	グリップ・ホース用ナット								
	②-③	虫付ジョイント		⑭	給水ホース								
	④	パイプパッキン		⑮	ホースキャップ								
	⑤	アジャストナット		⑯	タンク・給水接続パッキン								
				㉑	吸水ホース								

故障と修理

内容	原因	処置
●⑮ポンプハンドルの動きが悪い	▼⑳ワン型パッキンの油切れ	▲⑳ワン型パッキンにミシンオイルか機械油を少量塗布する。
●㉒シリンダーの液漏れ	▼㉒ポンプ弁パッキンにキズが劣化	▲㉒ポンプ弁パッキンを新品に交換する
●圧力がかからない	▼ネジ部より空気が漏れる ▼⑪⑫⑬のパッキンの劣化 ▼逆止弁のゴミ詰まり、または劣化、老化	▲各ネジ部を締めつける ▲新品と交換する ▲掃除する
●噴霧の出が悪い	▼加圧不足 ▼ネジ部より空気が漏れる ▼①ノズルキャップ、②ノズル駒 ③ゴミヨケの詰まり	▲加圧する ▲各ネジ部を締めつける ▲掃除する
●液が止まらない	▼コックセットの劣化	▲コックセットを交換する
●㉔安全弁の動きが悪い	▼ゴミ詰まり等	▲㉔安全弁を交換する

No.202302

※仕様は予告なく変更することがあります。

共通取扱説明書

この度はお買い上げいただき、誠に有難うございます。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、故障や事故を未然に防止し、永くお使いいただけるよう正しくご使用ください。

一頭口シリーズ	二頭口シリーズ	伸縮二頭口シリーズ	除草剤専用
#3001(3ℓ)	TN-4300(4ℓ)	T-4800(4ℓ)	H-3005(3ℓ)
#3003(3ℓ)		T-5900(5ℓ)	H-4400(4ℓ)
#4000(4ℓ)		T-6800(6ℓ)	
#5100(5ℓ)			
#6000(6ℓ)			

この取扱説明書は、お使いになる方がいつでもみられる場所に大切に保管してください。

安全上のご注意

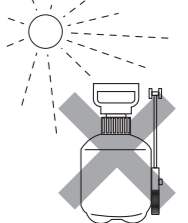
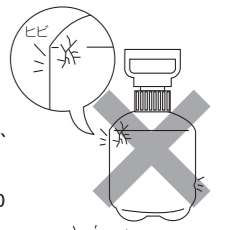
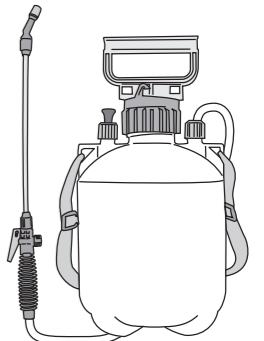
- 危険** : この表示を守らなかった場合、破裂などの思わぬ事故を招き、人が死亡、または重症などの重大な結果に結びつく可能性があります。
- 警告** : この表示を守らなかった場合、人が死亡、または重症などの重大な結果に結びつく可能性があります。
- 注意** : この表示を守らなかった場合、人がけがや火傷を負う可能性が高くなり、本器の故障の原因にもなります。

使用上のご注意

- 危険**
  - タンクは通常のご使用で、3年をめどに交換してください。
  - 使用年数に関わらず、使用環境や使用頻度、薬品の希釈条件や使用後の保管不備によって、本器の劣化が早まる可能性があります。タンクにクモの巣状の細かい亀裂が生じたり、変色や異常が出たらタンクの寿命です。ただちに交換してください。
  - 直射日光に当たる場所に長時間放置した場合、本器の材質が劣化し破裂する恐れがあります。
  - 本器にキズをつけたり、落としたり、ぶつけたり、強い衝撃を与えないください。
  - 火や高熱のそばに置かないください。また、お湯を入れないください。
  - 本器は園芸専用噴霧器につき、原則園芸目的以外には使用しないでください。また、塗料など粘度の高い液体、強酸性・強アルカリ性の液体、ベンジン、ガソリン、シンナー等の溶剤類は絶対に使用しないでください。破裂する恐れがあります。
  - アルコールや次亜塩素酸水の消毒に使えます。ただし、アルコールは濃度80%以下、次亜塩素酸水はPH5.0~6.0のものをご使用ください。
  - 種類の違う薬品が混合されると、危険ですのでおやめください。

- 警告**
  - 改造は絶対に行わないでください。故障や事故の原因となり、思わぬ怪我のもととなります。
  - ご使用する薬剤は規定通りに希釈してください。高濃度の薬剤は植物を痛め、また本器の性能も損ない、思わぬ事故の原因となります。
  - ご使用する際は、安全のため、必ず露出部の少ない保護衣(保護マスク・保護服・保護帽・手袋・長靴)を着用してください。
  - 作業終了後は、ただちに本器の圧力を安全弁より開放してください。
  - 作業終了後は、ただちに顔や手足、皮膚の露出部分などを石鹸でよく洗ってください。また、うがいを必ず実行し、目は清水で洗ってください。
  - 噴霧器を持ち運ぶ際は、必ずハンドルとポンプがロックされているか、確認してください。

- 注意**
  - タンクに液体を入れたまま倒さないでください。
  - 本器の寿命を永く保つため、また、パーツの損傷を防ぐため、使用後は必ず真水で1~2分噴霧して薬剤を洗い流してください。
  - 薬剤は有害ですので、お子様の手の届かないところで保管してください。



お問い合わせ

マルハチ産業株式会社

東京都港区芝4丁目12番2号  
TEL 03-5443-8611 FAX 03-5443-8614  
E-mail:maruhachi@muc.biglobe.ne.jp

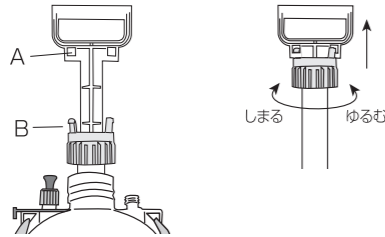
# 使用方法

## 1 タンクに薬剤を入れる

- ポンプセットをタンクから外して、薬剤を入れてください。

<ポンプセットの外し方>

- ハンドルAをつめBに引っ掛けてそのままハンドルAを上を持ち上げながら左に回してください。

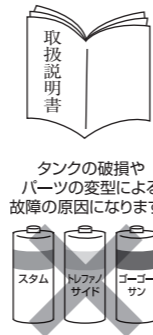


### 入れる薬剤の希釈目安

水	薬 剤		
	500倍に うすめるとき	1000倍に うすめるとき	2000倍に うすめるとき
1リットル	2cc	1cc	0.5cc
4リットル	8cc	4cc	2cc

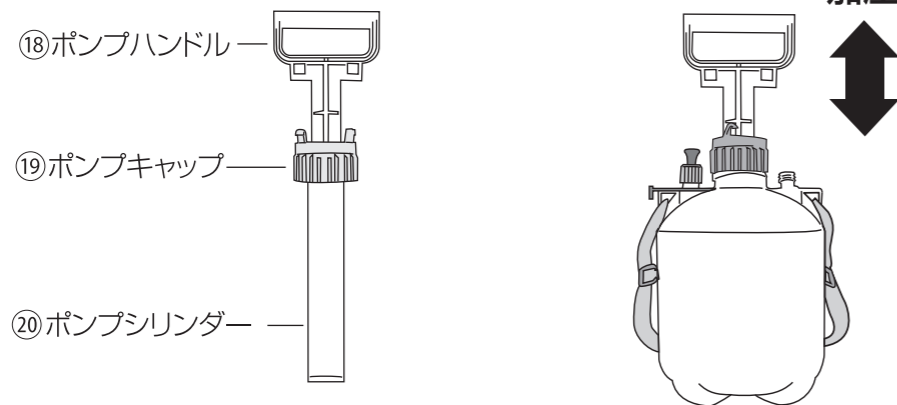
**注意** タンクの上限の目盛り以上薬液を入れないでください。  
タンクの目盛りは多少の誤差がありますので、目安にしてください。

- 注意**
- 前回使用した薬剤が、残っていないか確認してください。化学反応をおこし、有毒ガスが発生する危険があります。
  - 薬剤の調合は付属の説明書に従ってください。
  - 薬剤は適切な濃度をお守りください。
  - 濃度の高い薬剤は植物や噴霧器を痛め、タンクの劣化が進みます。
  - 別の容器で、薬剤を十分溶かしてからタンクに入れてください。
  - マシン油乳剤とは園芸用薬剤です。機械用油のマシン油は使用できません。間違いの無いようにご注意ください。



## 2 加圧する

- ⑱ポンプハンドルを握り、上下させて加圧します。
- ⑳安全弁から「シュー」という音がしたら加圧を中止してください。



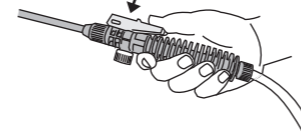
- 注意** ○加圧するときは、⑨レバーがロックされていないか確認してください。もし、ロックされた状態で使用しますと、液体が不用意にノズルから飛散することになります。



## 3 散布する (使用前には必ず各ネジ部をしっかり締め付けてください)

### 断続散布

親指で⑨レバーを押す



### 連続散布

⑨レバーを押しながら前に動かす



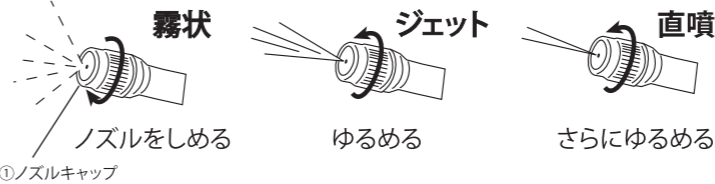
### 二頭口ノズルの特徴

2つのノズルは各360度まわせます。

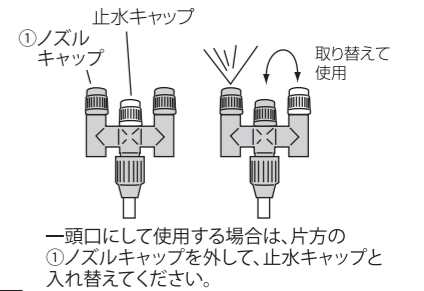


### 一定の角度から遠方へ散布するとき

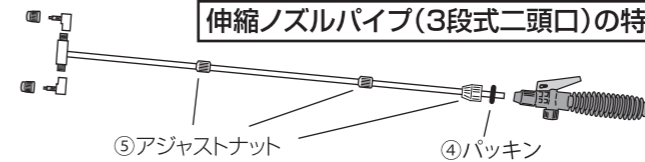
- ①ノズルキャップを回して調整してください



### 一頭口として使用する場合は…



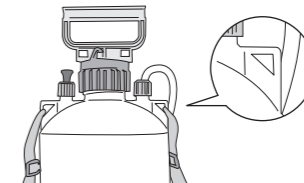
### 伸縮ノズルパイプ(3段式二頭口)の特徴



使用状況に応じて伸縮調節してください。  
⑤アジャストナットはしっかり締め付けてください。

### <ストラップの取り付け方>

- ストラップを三角の穴に直接通して留めてください。  
※3001・#3003・H-3005にはストラップは付いていません。

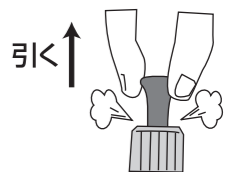


- 注意**
- 散布の際は薬液が対象物以外にかからない様、風向きや周囲の状況に十分注意してください。
  - 除草剤の散布には、目的の面積以外の幅にかからないように、一定の角度にノズルを調整してください。(他の植物を枯らすことがあるため)
  - 霧の勢いが弱くなったら再び加圧してください。
  - 霧が不調の場合は、ノズルキャップをはずして付着しているゴミを洗い流してください。

## 4 使用後はタンクの圧力をめく

- 作業終了後は、㉔安全弁を引き上げて、タンクの圧力を逃がしてください。

- 警告**
- 破裂する恐れがありますので、加圧した状態のまま放置しないでください。
  - けがをする危険があるのでポンプキャップ等をはずす際は、必ず先にタンク内の圧力を抜いてください。



- 使用後はタンク内の薬液を抜き、十分に洗い流してください。薬液が残っていると本器の性能を損ない、思わぬ事故の原因となります。また、他の薬品と誤って混同すると危険です。
- 保管時は必ずタンク内の圧力を逃がし、直射日光を避けて保管してください。直射日光の当たる場所へ長時間放置しておいたり、圧力のかかったままにしておきますとタンクが劣化し、破裂する恐れがあります。

